



飛鳥

2019年度 秋期特別展

自然と人と

ASUKA | In Harmony with Nature

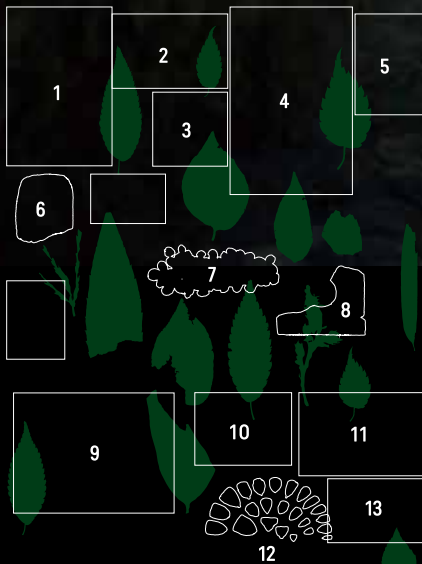
奈良文化財研究所 **飛鳥資料館**

【2019.10.11 fri-12.1 sun】

休館日 | 月曜日(ただし10/14[月・祝]11/4[月・振休]は開館、10/15[火]11/5[火]は休館)◎10/22[火・祝]、11/3[日・祝]は無料入館日
開館時間 | 午前9時～午後4時30分(入館は4時まで) 入館料 | 一般270円(170円)、大学生130円(60円)()内は団体料金
高校生及び18歳未満、65歳以上(年齢のわかるものが必要)は無料 主催 | 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 飛鳥資料館
協力 | 入江泰吉記念奈良市写真美術館、歴史に憩う橿原市博物館、明日香村文化協会 後援 | 文化庁、明日香村、近畿日本鉄道株式会社

飛鳥の都で、人々は自然とどのように向き合ってきたのでしょうか？
 飛鳥の都は、山地と丘陵地が間近にせまり、
 平坦地は狭く、中心部を横切るように川が流れています。
 この地の自然環境は、その後の日本の都
 —たとえば奈良や京都とは、明らかに異なります。
 けれども、そんな飛鳥の地にも、
 何度かの中断をはさみながらも、100年近く都がおかれてきました。
 そして、1300年が過ぎ去った今、
 飛鳥には人々が郷愁を感じる農村景観が広がります。
 山には木々が茂り、川には岩を縫うように清流が流れ、
 傾斜地には棚田が築かれ、その傍らには古代の遺跡が眠ります。
 飛鳥時代から現代まで、飛鳥の人々は、この山や川の恵みを利用してきました。
 飛鳥の自然は、時代の流れと共に少しずつ姿を変えながらも、
 いつも人々の暮らしの側にありました。
 今回の特別展では、飛鳥における自然と人との関わりを
 様々な角度から考えてみたいと思います。
 飛鳥時代の遺跡と人々の暮らしと自然が一体となった飛鳥の魅力を、
 飛鳥資料館写真コンテストに寄せられた写真と、
 文化財研究の成果と合わせてお楽しみください。

白石博「石橋を渡りて～年に一度の逢瀬～」



1. 不動の滝周辺の岩場 | 2. 入江泰吉「飛鳥寺付近」(入江泰吉記念奈良市写真美術館所蔵) | 3. 奥山廃寺出土礎石 | 4. 高取城周辺の森 | 5. 辻本博幸「雨後の飛鳥川」 | 6. 牽牛子塚古墳出土石材 | 7. 藤原宮出土桃の種 | 8. 定林寺出土露盤石 | 9. 木材の切り出し作業 (明日香村森林組合提供) | 10. 熱川英明「飛鳥川、石走の秋」 | 11. 山田寺跡出土建築部材 | 12. 飛鳥藤原地域出土独楽 | 13. 原木シタケの栽培 | *葉っぱはすべて藤原宮下層運河出土

EVENT

「飛鳥の森を探る」

飛鳥時代の森と現代の森には、どのような違いがあったのでしょうか？

出土資料や木の観察、葉っぱの葉づくりをしながら、
 研究者とともに、飛鳥の森を探ります。

10/29 [火] 13:30~15:30 飛鳥資料館にて

※要事前申込 (多数の場合は抽選)。定員15名。参加無料 (要入館料)

「ふるさと飛鳥を語る」

地元のおじいちゃん、おばあちゃんが展示室に登場！

観光目線とは一味ちがう、とっておきの飛鳥の魅力に出会えます。

11/15 [金] 13:30~15:30 飛鳥資料館にて ※事前申込不要

【申込方法】

E-mailまたは往復はがきに以下の必要項目をご記入の上、「イベント参加希望」と明記して、10月20日 [日] までにお申込みください (往復はがきの場合は、当日消印有効)。

〈必要項目〉①参加希望日 ②代表者の氏名・年齢 ③代表者の郵便番号・住所 ④代表者の電話番号 ⑤その他の参加者全員の氏名・年齢 (1回の申込で代表者を入れて2名まで申込できます)

*お申込後、2週間程度で返信が届かない場合は、ご連絡ください。

*メール申込の方は、@nabunken.go.jpからのメールを受信できるように設定してください。

〒634-0102 奈良県高市郡明日香村奥山601 飛鳥資料館 イベント係
 電話：0744-54-3561 E-mail info.shiryokan@nabunken.go.jp



【交通案内】

○近鉄橿原神宮前駅・飛鳥駅から
 明日香周遊バス (赤かめ) で
 「明日香奥山・飛鳥資料館西」下車。

○近鉄・JR桜井駅から

奈良交通バス (36系統：明日香奥山・飛鳥資料館西行) で
 「飛鳥資料館」下車。